

どくしょ もり 読書の森

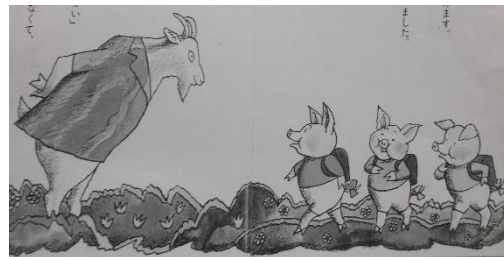
平成27年12月2日
国立第四小学校 図書室

11月の朝読書の時間は、低・中学年は物語、高学年は伝記を読みました。あらすじと共に、みなさんの感想を紹介いたします。同じ作品を読んで、お友達はどう感じたのでしょうか…。

作品のつづきを知りたいみなさんは、図書室に行ったり、公共の図書館で本を借りたりしてみてください。

1年生 『ちくとたくてくは』 与田 準一

あらすじ・・・ こぶたのちくとたくてくは、いつもいっしょに学校に行きます。けさは行くところまで、やぎのおじいさん、さるのでんきやさん、あひるのおばさんに会いました。ちくとたくてくは、おじいさん・でんきやさん・おばあさんに会うたびに楽しく話して学校へ行きました。つづく・・・



1年1組

おがわであひるのおばさんが、さかなすくいをして、ちくとたくてくは、「どじょうが五ひきとれた。三ひきたべたらのはいいくつ」ときいたら、「のこりもたべたい」、「のこりもたべたい」、「のこりもたべたい」といっていたところがおもしろかったです。

1年2組

「そうら、どじょうが5ひきとれた。三ひきたべたらのはいいくつ」のところが好きです。

2年生

あらすじ・・・ 遠くに出かけたがまくんとかえるくん。家に帰るとがまくんは、うわぎのボタンを一つなくしたことに気がつきます。もときた道をもどってさがしますが、見つかりません。そのかわり、ほかのボタンがいくつも見つかりました。がまくんは、ボタンが見つからないので、おこって家

に帰ってしまいました。がまくんが家のドアをあけると、ゆかの上になくしたボタンが落ちていました。いっしょにさがしてくれたかえるくん「わるいな…」と思ったがまくんは、自分のうわぎに見つかったたくさんのボタンをぬいつけて、かえるくんプレゼントしました。



2年1組

ぼくは、がまくんが、「ああいやになっちゃう。」と、いっていたところがなんとなくおもしろかったです。そのことがすごくこころにのこりました。

2年2組

ボタンが見つかってよかった。かえるくんうわぎをあげたのがやさしいと思いました。

3年 『きょうりゅうが学校にやってきた』 作者 アン・フォーサイス

あらすじ・・・ ピーターの教室にきょうりゅうが入ってきたので、用務主事のパディさんに助けを求めようとしています。パディさんが教室にかけつけると、きょうりゅうはねていました。パディさんが、ビスケットやチョコできょうりゅうをおびき寄せようと思いますが、見向きもしません。そこで、パディさんは校長先生を呼んできました。つづく・・・



3年1組

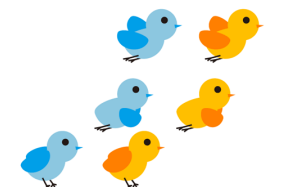
ぼくは、たべもののおいがしたらおきるのかなと思ったらおきないのでとてもびっくりしました。そのどうぶつは、どうなったのかと思います。

3年2組

きょうりゅうは、もうぜつめつしたはずなのに、三組の教室にあらわれたのがふしぎでした。この先、きょうりゅうがどうなっていくのかが書かれていませんが、そうそうすると面白いです。

4年 『世界でいちばんきれいな声』 マジョリー・ラ・フルール

あらすじ・・・ あるとき、一羽の子ガモが広い世界を見たいと思い、うちを出ました。子ネコ、子犬、小鳥、めうし…次々にすてきな鳴き声の動物



たちに出会った子ガモは、自分も動物たちと同じようにすてきな声で鳴いてみたいと挑戦しますが、うまく鳴くことができません。そこへ、おかあさんガモがやって来るのが見えました。「クワッ！クワッ！」とおかあさんガモの鳴き声を聞いてうれしくなった子ガモは「世界中で一番きれいな声だ！」といってじょうずに鳴くことができました。

4年1組

子ガモが、かわいい声、すてきな声、きれいな声、りっぱな声にあこがれる気持ちがよくわかりました。どんなことでも、自分よりキレイだったりステキだったりすると自分もやってみようという気持ちがあるということを教えようという筆者の気持ちがよく伝わりました。最後の場面で、お母さんの鳴き声を聞き、自分の声に満足いったところが印象的でした。

4年2組

子ガモが、ねこやいぬ、小鳥、牛、いろいろな動物のおかげで自分の声が一番きれいでうまくなけることに気付けたところがよかったです。

5年 ①『南方熊楠』文・岡田 好恵 ②『パブロフ』文・岡田 好恵

あらすじ・・・ ① 両親の願いどおり、元気で勉強が好きな子に育った熊楠は、字を読むのが大好きで、小学校1年生のころには家にあった難しい本をみんな読むことができたといわれています。熊楠は大学に進学しましたが、つまらない授業を聞くのがつらくなり、大学を途中でやめて「勉強は自分でするものなんだ！」とアメリカで旅をしながら一人で色々なことを勉強しました。やがてイギリスの大英博物館に勉強の成果が認められ、その後も自分の興味があることを次々と見つけては調べ、成果を発表して、世界中から「歩く百科事典」と尊敬されるようになりました。



② イワン＝パブロフ博士は、ロシアの有名な生理学者です。長いこと、だ液（つば）と消化の関係を調べていました。1902年のある日、博士は実験用の犬小屋の前で、ある発見をしました。それは、カツカツと飼育係のくつ音が聞こえたとき、食べものが入っていない犬の口の中に、だ液がどんどん出てくることでした。それから博士は、いろいろな実験をしてこのことを「条件反射」と名づけて発表しました。

5年1組

「南方熊楠」
勉強は自らするのだということが心にのこりました。そして、歩く百科辞典とそんけいされるようになったこともすごかったです。

5年2組

「パブロフ」
私はパブロフがきょうみをもったことをすぐに調べようと思う考えにおどろきました。私だったらきっとすぐには調べず後まわしにしてしまうからです。パブロフのようにいろいろな考えで実験していくのは大切だと思いました。

6年 ①『アムンゼン』文・岡田 好恵 ②『レントゲン』文・岡田 好恵

あらすじ・・・ ① ロアルド＝アムンゼンは、両親に大反対されながらも、いつか探検家になって南極と北極に行こうと決めていました。そのために、子どものころから、スポーツなどで体をきたえ、本をたくさん読み、地図の勉強をしました。そして1911年12月14日、アムンゼン隊は一番に南極点にたどり着きました。アムンゼン隊が一番になったのは、寒さになれていて準備と調査が行きとどいていたこと。何よりも、アムンゼンがつねに落ち着き、無茶をしないで隊員の命を守ることを一番大事にしていたからだといわれています。



② 1895年のある日、今日は、空気がないところに電気を流すと何が起きるか調べようと、ウィルヘルム＝レントゲン博士は、働いている大学の実験室にやってきました。その実験で、見つけた光に手をかざした博士は、自分の手の骨が、紙の上うつしだされることを発見しました。それから、多くの人の手の骨がうつることを確かめて、その光を「X線（何だかわからない光）」と名づけ、発表しました。「X線」をつかした「レントゲン写真」のおかげで、多くのけがや病気を治すことができるようになり、レントゲン博士は1901年、第1回ノーベル物理学賞を受賞しました。

6年1組

「レントゲン」
私は、レントゲン博士は好奇心がおうせいなんだなと思いました。「今日は」というところからこれまで何回も実験をしてきたということがわかります。そしてついに実験からできた光のおかげで多くのけがや病気がなおされ、ノーベル物理学賞を受賞するというすごい人なんだなとも思いました。

6年2組

「アムンゼン」
アムンゼンは、子どものころからの夢をけっしてあきらめなくてすごいと思いました。大人になって南極に行けたのは、アムンゼンが落ち着いたこと、むちゃをしなかったことだと知り、私も何かをするときは、落ち着いてむちゃなどをしないことが大事だと思いました。